

《 取組の力点 》

1. 人権教育において

常に被差別の視点に立ち、自らの生き方を問い直し、差別をなくそうとする力をつけていくことや、事実と実践を重視すること、さらに差別を生み出す要因やものの考え方を変革することを大切にしてきた、同和教育の理念を根底に置いた人権教育の推進を目指す。そのために、各教科、特別の教科道徳、特別活動、総合的な学習の時間など、すべての教育活動の中で、同和教育の理念を位置付けるとともに、人権尊重の視点を踏まえて、「子どもたち一人ひとりの人権が尊重された学校であるか」を念頭に置き日々の実践を行う。

- (1) 仲間づくり・自主活動に努める取組
- (2) 人権・部落問題学習の取組
- (3) 保護者・地域との連携を深める取組
- (4) 教職員の人権意識を高める取組

2. 学級づくりにおいて

すべての生徒の「居場所は学級」であるという考えで、一年間の学級経営に臨むとともに、認め合い、支え合う学級集団づくりに努める。

- (1) 仲間とともに主体的に取り組む姿勢の育成
- (2) 生徒理解に努め生徒がつながりあえる工夫
- (3) 視点生徒を通じた学級の課題把握と、学級集団の成長をねらった仲間づくり
- (4) 自分の思いを綴り、周りに伝える活動の充実

3. 授業づくりにおいて

基礎学力の定着と向上に努め、主体的に学ぶことのできる生徒の育成を目指すとともに、学び合い、つながり合う学級集団づくりに努める。

- (1) 確かな学力をつけるための工夫
「めあての提示とふり返りの徹底」「『書く力』・『読む力・読み取る力』活動の充実」
「補充学習・家庭学習の手立てと実践」「ICTの活用」
- (2) 認め合い、つながり合う『学びの場』の創造
「教え合いや学び合いのための工夫」「発問の工夫」「学習形態の工夫」
「生徒会活動・学級活動・有志活動との連携」「学習班の設定」
- (3) キャリア教育の視点に立った授業づくり
「地域・企業等と連携した進路学習」
「自らの将来設計を可能とする“夢マップ”づくり」
「SDGsの目標達成を意識した教育活動の充実」

4. 道徳教育において

多様な考えを受け入れる態度を身につけるとともに、自らの力で未来を切り拓くことができる生徒の育成を目指す。

- (1) 考え、議論する活動の充実
自分の考えや感じ方を明らかにし、仲間の考えや感じ方を知り、自己をふり返ることで、確かな自己理解につなげる。
- (2) 道徳的価値の理解を目指すための工夫
「価値理解」、「人間理解」、「他者理解」、「自己理解」の4つの理解を念頭に置きながら学習を進め、授業の始めと終わりの自分の考えの変容に気づかせる。

研究デザイン

亀山市立中部中学校

教育大綱 基本方針-1

未来を拓く子どもたちの豊かな学びの実現

亀山市教育関係職員 研修基本方針

「一人ひとりの児童・生徒が個性を生かしながら
なかまとともに主体的に学ぶために」

- (1) すべての子どもの学ぶ意欲を高め、社会で生きてはたらく「確かな学力」を育てる教育活動をすすめる。
- (2) 教師の授業力向上を追求するとともに、系統的な指導をすすめる。
- (3) 人権を尊重し、なかまとともに、豊かな心と身体をはぐくみ、自己肯定感・自己有用感を高める教育活動をすすめる。
- (4) 地域の人材や活動を活用し、地域とともに特色ある教育活動をすすめる。
- (5) 研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励を取り入れ、効果的かつ主体的に資質向上を進める。

2026年度 中部中学校 研究主題

「互いを認めつながり合う仲間づくり」

～主体的に生きる生徒の育成～

《 主題設定の理由 》

(研究領域：全領域・全教科)

生徒の実態

地域とのつながりが強く、多くの生徒が地域行事に参加し、地域や社会をよくするために何かしてみたいと思っている。友達関係に満足し、学校に行くのが楽しいと感じている生徒が多い。授業は熱心に取り組む姿が見られるが、休みの日や家庭での学習時間が短く、勉強に対し苦手意識を持つ生徒が多い。

これまでの取組、成果・課題

本校では、「互いを認めつながり合う仲間づくり」の研究主題のもと「学級づくり」、「人権教育」を核として研修を続けてきている。令和7年度は、学級活動で授業研究を行うことで、協力、協働する活動の設定方法や、合意形成を図る機会を作ることに考えられた。「学級づくり」では、誰もが居心地の良い学級を目指す様々な工夫をするとともに、「ふれんどタイム」を月1回設けることで、クラスの仲間の人となりや意外な一面等を知ることにつながり、学級で自分の思いを話しやすい雰囲気を作ることができた。また、学級力アンケートを実施し、学級の現状や課題を生徒が把握し、どうすればより良い学級、目標とする学級に近づけるかなどを学級で話し合う機会を作った。合意形成を図ることの難しさを感じながらも、自分たちの学級を自分たちで作るという主体性がみられた。「人権教育」では、人権学習を通して、誰もが過ごしやすい社会の実現に向けてできることを考え、人権サークル「スマイルクローバー」の活動の発信を行い、校内での学びを深めることができた。しかし、学習したことが日頃の言動に結びついておらず、互いを認めあえなかったり、「つながり合う仲間」関係を構築したりすることができず、心ない発言をして仲間を傷つけてしまい、人間関係のトラブルを抱えた生徒も多かった。

そこで、今年度も研究課題を継続し、「協力や協働する場面」を多く設定することで教育活動を充実させ、これまでの成果をさらに積み上げ、研究を深めていくこととした。「班づくり」の検討や「班長会」を行うことでのリーダー育成など、「互いを認めつながり合う仲間づくり」を進め、規律や学級における信頼関係、豊かな人間関係が築かれるような学級経営を目指す。自治的集団を作ることが、学校行事や普段の生活に生きると考える。また、これまで以上に「授業づくり」のなかで、協力、協働する活動を設定し、規律を守りながら授業のなかでもつながりあえる学習集団をつくりたい。そして、生徒の人間形成を意識した研修を行っていききたい。

※「つながり合う」とは……生徒が、互いに聴くこと、話すこと(対話)を通して、合意形成を図れること。

※「主体的に生きる」とは……生徒が、①学ぶことに興味や関心を持ち、②自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、

③見通しを持って粘り強く取り組み、④自己の学習活動をふり返って次につなげられること。その結果、自己実現を目指して、どう生きるか考えられること。

《 研究の構想図 》

◆学校教育目標

『主体的に学び 心豊かに たくましく生きる生徒の育成
～ “深く学び合う” 場の創造を目指して 』

【目指す学校像】

- お互いの違いを認め合い、つながり合って生き生きと活動できる学校
- 主体的で対話的な深い学びが実感できる学校
- 教室が居心地の良い場所となる学校
- 保護者や地域の人々と連携協働し、ともに歩む学校
- 「命」を大切にし、生徒と向き合った温かい指導ができる学校



【目指す生徒像】

- 自分や相手の思いを大切にする生徒
- 意欲を持って主体的に行動する生徒
- 夢や希望をかなえるために自ら進んで学ぶ生徒
- 地域の活動に積極的に取り組む生徒
- 心身ともに健康で「命」を大切にする生徒



【目指す教職員像】

- 生徒一人ひとりに応じた支援と指導ができる教職員
- 指導力の向上に努めるとともに、魅力ある教育活動を積極的に創造する教職員
- 互いに高め合い学び合う協働的な同僚性を大切にする教職員
- 保護者や地域の思いや願いに寄り添い支える教職員
- 心身ともに健康で「命」を大切にする教職員

研究主題 「互いに認めつながり合う仲間づくり」
～主体的に生きる生徒の育成～

自らの思いや考えを語り合い、
共感し、つながり合う生徒の育成

学び高め合う
学習集団づくり

認めつながり合う
学級集団づくり

授業
づくり

学級
づくり

学び合う・高め合う

教え合う・語り合う

読み合う・聴き合う

綴る・読み取る・語る

- ・ 聴き合う、協力、協働する活動の充実
- ・ めあての提示とふり返りの徹底
- ・ 「書く力」「読む力・読み取る力」の向上
- ・ 学習形態の工夫（学習班の設定）
- ・ 確かな学力を身につけるための工夫
- ・ 安心して学びに向かえる環境の構築（失敗することを恐れない環境づくり・関係づくり）
- ・ ICTの活用

学習規律の確立

- ・ 仲間と共に主体的に取り組む姿勢の育成
- ・ 生徒理解に努め、生徒がつながり合える手立ての工夫
- ・ 視点生徒を通した学級の課題把握
- ・ “私”を主語に思いを綴る・語る取組
- ・ 安心して学びに向かえる仲間づくり
- ・ 人としての生き方についての考えを深める道徳教育
- ・ リーダーの育成

生活規律の確立

主体的に生きるために必要な能力を育成する
主体的実践力・情報収集力・課題解決力

人権教育を基底にすえた仲間づくり

（自らの思いを安心して語り、つながり合う仲間の構築を目指す）

《 「つながり合う仲間」の構築を目指すために 》

◆子どもの姿や子どもを取りまく環境から、その実態を知り、学級（または学年）としての課題を見つける。そのための視点として、以下のことに焦点をあてた取組を進める。

- (1) 日常生活の中で感じている不安や悩み、身のまわりの差別などについて、ともに考え解決していこうとする生徒の育成を図る。
- (2) 視点生徒（気になる生徒、弱い立場におかれている生徒）を中心に据えた「学級づくり」を進め、周りの生徒の変容も的確に捉えながら、視点生徒と他の生徒をつなぐ取組を実践する。
- (3) 人権学習を通して学んだことを、自分の生活や学級集団の中にある課題と重ねて考えたり、解決に向けて行動したりすることができる生徒の育成を目指す。
- (4) 「だれとだれをつなぐのか」「何のためにつなぐのか」について共通理解を図るとともに、具体的な手立てを模索し交流の機会をもつ。
- (5) 「班長」や「室長」などリーダーを育成し、「班長会」を定期的に行ったり、学習班を活用したりすることで、自分たちで学級・学校を運営していくという意識を持たせる。

◆子どもたちの「学ぶ意欲」や「他者と関わる意欲」を高めるために、自己肯定感や自己有用感を高める取組を推進し、安心して学びに向かえる（「教室は間違ふところだ」という雰囲気）仲間づくりを進める。

◆「私」を主語にして思いを伝えることができるよう、「綴る」活動や「話す」活動（自己開示ができる活動）を積極的に取り入れる。

《 主体的に生きる生徒を育成する取組 》

◇ 「主体的実践力」を育てよう！

- 子どもたちの「わかる」「できる」を学びの基本として、その「学び」から得られる高揚感を共有させる取組を考える。
- 子どもたちが「自己肯定感」や「自己有用感」を持てるような声かけや具体的手立てを考え実践する。



◇ 「情報収集力」を育てよう！

- 子どもたちの「読む力・読み取る力」を高め、その都度必要な情報を取捨選択できる力を養う取組を考える。
- 子どもたちにとって、何のための「行動（収集および活用）」なのかを考えさせる。

◇ 「課題解決力」を育てよう！

- 子どもたちの「書く力」「話す力」を高めることにより、文章表現や身体的表現などを駆使して、課題解決に取り組もうとする態度を養う。
- 子どもたちの身近な問題について考えさせ、共有することで、解決に導く糸口をつかませる。

